

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 中間評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	武雄市立若木小学校
1 前年度 評価結果の概要	・全職員で情報共有を常に行い、日頃の児童とのコミュニケーションを大切にし、ケース会議等で対策を講じながら、児童にとって安心安全で温かい環境を創ることができた。 ・学校目標のサブテーマに「挑戦・工夫・努力」を掲げ、児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動に取り組みおおむね良好な結果となったが、今後もさらに充実を図り、児童の活動意欲を高めていきたい。 ・コロナ禍で学んだ新しい考え方で、方法を創意工夫しながら各種行事を行うことができ、地域の人材を活用することで地域の良さを学び、地域を愛する子どもを、地域と共に育むことができた。
2 学校教育目標	ふるさと“若木”を愛するたくましい若木っ子の育成 ～学校はみんなで創る～

3 本年度の重点目標	1 小さな学校だからできる 安心安全で 温かい環境を創る 2 自分の夢や目標をもち、すすんで挑戦し続ける力を創る 3 地域の良さを学び、地域を愛する子どもを、地域と共に育む
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価					主な担当者
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○個別学習と協働的な学習を組み合わせ、場の工夫をすることにより、児童が一人でじっくりと考える授業と友達同士で教え合う授業の実践	○学校評価アンケートによる自己評価で、「児童一人一人がじっくりと考える時間と、友達同士で教え合ったり意見を交換する時間を確保している」の教師の達成率が90%以上	①「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る単元の開発を行う。 ②振り返りの仕組み方の実践を行う。 ③リーディングDXスクール事業への取り組みを通して、1人1台端末とクラウド環境を効果的に活用した実践を行う。	A	・12/6にリーディングDXスクール事業に係る公開授業を2・6年で実施し、他の学年においても、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る単元づくりと振り返りの仕組み方の工夫を行い、自ら学びを進めようとする児童の姿が見られた。		・		・	【わかる部会】 学力向上コーディネーター 研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童と保護者の学校評価アンケートの心の教育に関する評価において肯定的な評価が90%以上	・平和学習週間や人権集会、ふれあい道徳などの児童の豊かな心を育む教育活動を計画的に行う。 ・人権の花運動などの奉仕活動を計画的に行う	A	・平和学習週間や人権集会、ふれあい道徳など計画的に実施することができた。 ・人権の花運動などの奉仕活動については、徐々に参加しようとする意識が高まってきている。今後の取り組みに向けてさらに活動を進める必要がある。		・		・	【かんしゃ部会】 道徳教育推進教員 人権・同和教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員や保護者の学校評価アンケートのいじめ防止のなどの項目について肯定的な意見が90%以上	・心のアンケートを年4回実施し、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ・児童連絡会やケース会議を定期的に行い、職員で共通理解、共通実践を行い常に組織的な対応を行う。	A	・心のアンケートを4回実施し、いじめの早期発見、早期対応を行うことができた。 ・児童連絡会は2週間に1回、ケース会議は定期的に行い、職員で共通理解し、共通実践を行い、チーム若木で組織的な対応をおこなうことができた。		・		・	【かんしゃ部会】 道徳教育推進教員 人権・同和教育担当 教育相談担当	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・学級活動や委員会活動、クラブ活動を計画的に行い、児童の自主性を育むとともに、日常的に児童を褒める機会を設ける。 ・異学年交流を行い、児童の豊かな人間関係を育む。 ・キャリアパスポートを活用し、自分について考えさせる機会を設ける。	B	・学級活動や委員会活動、クラブ活動を月に1回程度行い、児童の活動を褒める機会を設けることができた。 ・たてわりでの遊びを通して異学年の交流を行うことができた。また、週に1回のたてわり掃除も行うことでさらに異学年で協力することができるようになってきた。 ・年度初めにキャリアパスポートの記入をし、自分の目標や夢について考える全児童考える時間を設けること		・		・	【かんしゃ部会】 研究主任 特別活動担当 委員会活動担当 クラブ活動担当	
	○(学校独自重点取組・任意)	○	・		・		・		・		
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」 ○(学校独自重点取組・任意)	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上 ②家庭と連携して「早寝、早起き、朝ご飯」を徹底し、よりよい生活リズムが定着している児童90%以上	①体育的行事や授業の工夫に加え、スポーツチャレンジの取り組みの促進を図る。 ②よりよい生活リズムの定着に向けて、食に関する指導や保健指導を児童に行い、また便り等で家庭への啓発を行う。	A	①持久走大会の在り方を再検討し、児童の実態に合わせた形で行ことができた。 ②生活リズムアンケート(7月)を実施し、児童の食や健康に関する課題について学校保健・給食委員会(7月)にて家庭と共有することができた。		・		・	【きたえる部会】 体育主任 保健主事 給食主任 学校栄養職員	
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・		・		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・組織力で、校務分掌担当業務量の軽減化を図る。 ・勤務時間内で対応できる業務改善を図る。	B	・Google Classroomなどを活用することで情報の共有やアンケートの配信・回収などの時間を短縮することができた。時間外在校時間の上限を超えている職員は年度当初より減っている。		・		・	管理職	
	○ 会議のペーパレス化及び協議内容の厳選	○会議の時間・回数を5%削減	・会議を厳選し、回数を減らす。 ・事前にデータを共有し、確認しておくことで会議の時間短縮につなげる。	B	・内容の精選や協議事項のみを取り扱うことで会議時間を短縮することはできているが、資料準備が整わないことが多く、事前の確認が進んでいない。今後、改善の必要がある。		・		・	管理職	
●特別支援教育の充実	○支援を要する児童を含む全ての児童一人ひとりを大切にした教育活動の実施	○特別支援教育に関する研修を受けた教員が100%以上 ○児童連絡会を月1回以上行う	・ケース会議を定期的に行い、職員で共通理解をし、必要に応じて組織的に対応する。 ・職員だけでなく、福祉とつながり、組織的に対応する。	A	・特別支援教育に関する研修を全教員対象に行うことができた。 ・児童連絡会を隔週で行ったり、必要に応じてケース会議を行ったりすることで、組織的に対応することができている。 ・福祉や保護者も交えてケース会議を行い、課題解決を図ることができた。		・		・	【かんしゃ部会】 特別支援教育担当	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○開かれた学校づくり	○保護者や地域に信頼される学校づくり	○「学校の様子を伝えている」について肯定的な回答90%以上 ○教育効果を高める地域との連携	・定期的な学校だよりや学級通信等を活用して、情報発信を積極的に実施する。 ・次年度の創立150周年記念事業に向け、学校と育友会、地域が連携を密にしながら準備を整える。	B	・定期的な情報発信を行うことで、学校や学級での子どもたちの様子を伝えることができた。また、育友会との密な情報共有を行うことができている。今後、次年度の記念事業に向けて、より具体的な内容について話し合いを行う予定。		・		・	管理職	
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・		・		

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------